



「までいの村」から。

「までい」は、「手間暇惜しまず」「丁寧に」「心を込めて」という飯館の方言です。

7月キュウリ。10月レタス。
11月は、ほうれん草、
小松菜を収穫しました。

飯館村長泥地区では、

除染した土の活用に向けた実証事業の一環として
今年から野菜も栽培しています。

土づくりから関わっていただいている、
地元の庄司喜一さんにお話を伺いました。

「新しい土や堆肥を使うことは、

実証事業以外にはありませんでしたから、
そこは初めてのことで苦労しています。

ただ、いろいろ試してみても、私たち自身が
経験を積むことも実証事業だと考えています」

「放射能濃度を測った結果から、

作物に影響がないことを私たちは知っていますが、
他のみなさんがどのように

お考えになるかは気になります」

環境省では再生利用実証事業を通して

農作物中に含まれる放射能濃度を測定しています。

引き続き、科学的なデータを取得するとともに、

情報発信に努めてまいります。

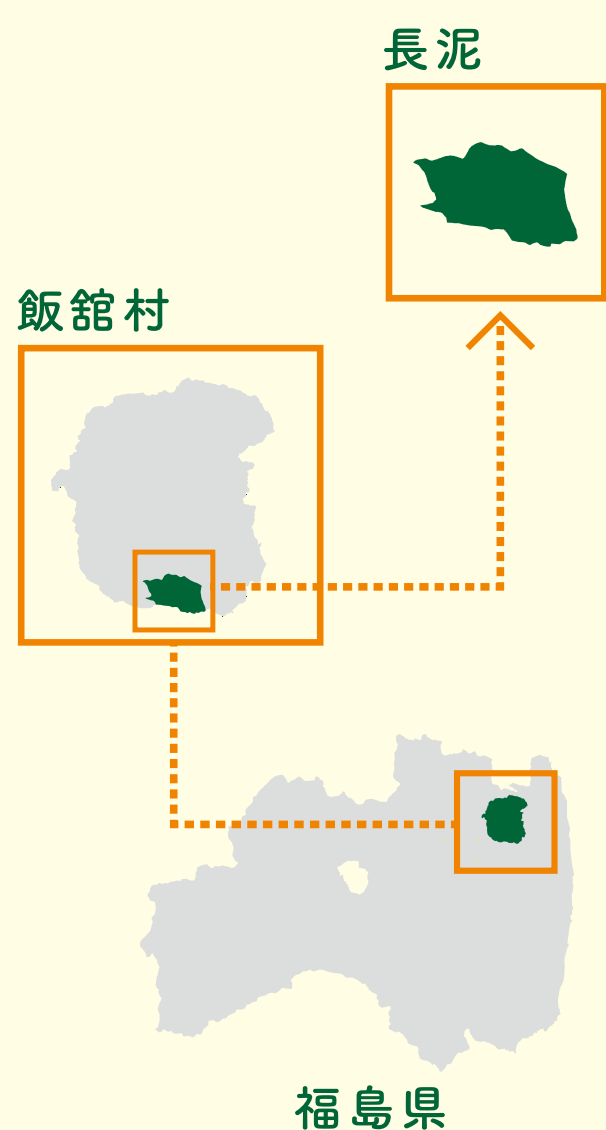
※これまで測定した野菜の放射性セシウム濃度は
0.1〜2.3 Bq/kgでした。（一般食品の基準は、100 Bq/kg。

なお、これらの野菜は、測定後に廃棄しています。）

また空間線量率、水、大気の測定のみならず、

外部被ばく線量も継続的に把握し、

実証事業に関わる人々の安全に常に配慮しています。



※手に持っている野菜は、
実証事業で栽培された
ほうれん草、小松菜です。



しょうじ まさひこ
庄司正彦さん

しぎ はらせいいち
嶋原誠一さん

しょうじ きいち
庄司喜一さん

実証事業の
詳細はこちら

福島、その先の環境へ。

風評被害と向き合い、震災を風化させることなく、福島のよりよい環境づくりに貢献すること。そのために環境省は、
「飯館村での実証事業」、「いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』チャレンジアワード」など、福島の「その先」に向けた取組を行っています。